

あんてな

No.60

発行 事務局・広報部

2020.3.26

1年間お疲れ様でした。今号は纏め特集です。ウィーンのパスト記念柱を、とっさに思い出した2月。連日の報道に、一刻も早く沈静、終息してほしいと願うばかりです。

令和元年度を振り返ります

～各部の活動を報告します～

事業部

《海外美術研修旅行再開》

海外情勢が不安定なことで中止となっていた海外美術研修旅行が3年ぶりに復活。本郷新記念美術館の学芸員による事前研修会を経て、スペイン旅が10月に実施され、参加者25名が、カタルーニア独立運動のストを避けつつ、ガウディの建築、美術館、王宮など現地ならではの芸術を鑑賞した。国内研修旅行は5月に参加者30名で福井・滋賀県の美術館などを4日間で内容濃く13か所を巡った。

今年度は2名の退部があったが、来年度は3名の新しい風に期待が高まる。

広報部

《情報共有、次へつながる活動へ》

広報部は少人数の部であるため、それぞれの担当作業が変わることがよくあります。退部等でその仕事を熟知していた部員が抜けても『不安なく後を引き継げるようにしたい。』との思いから今年度は特に違うチームの作業進捗を、お互いしっかり把握するよう部会の進め方等を変えていきました。

『アルテピア』は事務局や各美術館との綿密な連絡が、『あんてな』やポスター・チラシ配布作業、PRコーナーの維持は、ボランティアの皆様のご協力が不可欠です。

次年度もどうぞ宜しくお願いします。



売店部

《この1年を振り返って》

今年度は相原求一朗展を皮切りに、東山魁夷展、カラヴァッジョ展、アイヌの美しき手仕事とバラエティに富んだ展覧会が続きました。その都度それに合わせた商品の発注・販売、さらには消費税UPに伴う切り替え作業も加わり、忙しい日々でした。

そんな中、5月には部内研修旅行で富良野の後藤純男美術館を見学。8月には釧路でのボランティア交流会に参加し、各美術館の運営及び内情の大きな差に驚きました。

JR車中での楽しさは良い思い出です。

来年度も部員一同笑顔で接客を心掛けます。

解説部

《部内研修班の班長として》

解説部に入部して3年。1年目は、自分の解説のことだけで精一杯でした。2年目は資料班長として、解説に必要な資料を準備し

ました。3年目の今年度は、講師を招き研修を行う部内研修班のメンバーになりました。役割をよく知らないまま班長となりましたが、他のメンバーの暖かいご協力と支えにより、年2回の研修を無事実施することができました。2年間の裏方の仕事は、自分のことだけでなく、解説というパフォーマンスを、影で支える他の方たちにも、注意を向けるきっかけとなりました。

資料部

《来期新入部員事前研修》

資料部では、次年度新入予定部員5名を対象に、例年通り5カ月に及び事前研修を行いました。研修担当は、入部2年目の私たち3名です。研修の要綱や日程は部で決まっていますが、どう教えるか、は研修担当の裁量に任されています。研修開始の3カ月前から、シナリオ作りやりハーサルを行い研修に臨みました。研修を終え、「今まで知っていると思っていたのに、実は全く理解していなかった」というのが3名の共通した感想で、研修をした側にとっても「再研修」のよい機会となりました。

研修部

《この一年の活動を振り返って》

今年度の全体研修は、7月22日、かでの2・7の会議室を会場に、講演会と懇親会（7部の活動報告）を行いました。講演会は、「アイヌ文化と北海道の未来」と題して、本田優子札幌大学教授に講演していただきました。先生は大変お忙しい方で、この日しか予定が合わず、短い準備期間になりましたが、92名の参加がありました。参加者からは、「熱意ある講演を聞いて良かった」との感想が多くあり、今回の講演会は、アイヌ文化を理解するきっかけになったのでは、と思います。



特活部

《笑顔と共に》

今年度は17回の美術への誘いと3回のアート・クラブ（うち1回は小学生対象のジュニア・アート・クラブ）を行いました。2年ぶりの開催となったジュニア・アート・クラブは特に準備が大変でしたが、当日は子どもたちの笑顔の花が美術館いっぱいに広がりました。部内研修では、彫刻家の國松明日香氏に講演いただいたり、エコール・ド・パリの画家について、部員がそれぞれ調べて発表しました。

来年度も入念な準備と共に皆で楽しく活動をしていきたいと思っています

子どもと楽しむmimaへようこそ

けーたろう（マールの生みの親）



子どもの感性は環境が育て、その環境が楽しいと継続し、継承されますよね。絵本おばけのマールシリーズと、この展覧会でのマールの仕事はその入口づくり。

北海道立三岸好太郎美術館は僕らの宝物。そこが存続の危機にあったのでマールを『あおいちょうちょ』が誘いにきたのが今から11年前。あれからたくさん子どもたちが三岸好太郎美術館に来てくれました。

絵本の世界と、実在するその施設での体験を共有してその2つの環境を楽しむのが「おばけのマール」なのです。それが子どもたちにとって将来どんな困難も超えてゆく力。誰かに確かに『愛されたちいさな命』を大きく燃やし続けてほしい。

マールを読んで mima に行こう！！



編集後記*** 新入部員の皆様のご挨拶を戴いたのが、ついこの前の様に思えるのに、もう年度末。充実していたのですね。皆様、新年度もお互いに頑張りましょう。